



企業知財の価値向上

2008年度修了(経営戦略専攻) 竹岡 和彦

ある事業部門に所属する複数の社員から尋ねられました、「企業知財って必要なのか」。企業知財は知的財産関連の法律を基礎とし、創出されたアイデア等を、法的保護を受ける知財に仕立て上げる活動を主に行っています。

この問いのとおり、上述した業務は、代理人として連携している社外の法律・特許事務所の業務と多くの部分で重複するため、企業知財の価値は相対的に低くなってきていると思われます。

ここで、企業知財は、法律・特許事務所と異なり、自社の経営環境や自社を取り巻く環境という情報を得ることができます。この重要な情報を手中にできる企業知財は、新たな行動を起こすことにより法律・特許事務所にはない価値を創出し、経営陣の懐刀としての価値を獲得できる可能性があります。

この新たな行動は、「知財」に、自社の風土および業種に合致するようローライゼーションした「マーケティング」および「ファイナンス」というビジネス視点を融合させ、「自社の経営や事業部門に対してものを言う活動」を行うことであり、企業知財の活動の新しい柱として位置づけられます。この新たな活動により、企業知財は新たな価値の獲得のみならず、従来の知財活動をもブラッシュアップし再構築してさらなる価値を目指すことができると考えます。

企業知財は、かつては業務の特殊性から企業内で聖域化していました。しかしながら、新世代の企業知財は、「知財」という生来の武器と、「マーケティング」と「ファイナンス」とからなるビジネス視点という新たな武器を持つことによって、企業内での存在価値を高め、旧態の企業知財の殻を破り企業内外の他流試合で切磋琢磨することが企業を活性化し、真の意味での経営に資する、筋肉質の専門集団となりうると考えます。



国際経営コース(IMC)で学んで

2008年度修了(経営戦略専攻) 永田 勇貴

私は、大学卒業後すぐに社会に出ることを選ばず、国際経営コース(IMC)に入学することを選びました。それは、もっと学生生活をエンジョイしたかったから!ではなく、ただ純粋に就職前に経営やファイナンスを英語で学んでみたかったからです。アメリカ留学を考えれば、語学研修も含めて時間がかかり過ぎ、試験勉強から始めなければいけません。時間も資金も短縮したかった私は、ある意味、「穴場」なIMCを当時の恩師に教えて頂き、これしかないと判断したのでした。

事前の予想通り、IMCは、授業中の会話は英語で、海外留学生が多いので、授業外でも英語を話す機会もあり、自宅の大阪から1時間程度の距離で留学をしているようなものでした。その結果、特に対策勉強もせず、TOEICを受けたことのないレベルから、いつの間にか975点が取れるまでになっていました。当初の目的である経営やファイナンスも、最初は資料を読むのにも1日かかっていたのが、3時間程度で読めるようになり、また、経験の豊かな教員・教授の方々から、体系的な知識を得ることができました。それに加え、幸運なことに、語学とその知識を両方活かすことのできそうな大手総合商社に内定をもらうことができたのです。なった、できたとまるで広告の誘い文句のようですが、それも自分に合った時間や労力の資源配分ができたから、そうなる道を選んだからだと思っています。私の2年前の投資判断は、今のところ、正解だったようです。限られた資源を有効に使うことは仕事でもプライベートでも重要な課題です。効率的に人生を楽しみ、学びませんか。

